

American Friends of Akita Prefectural University, Inc.と秋田県立大学との覚書

秋田県立大学

理事長兼学長 小林淳一

2022.10.11

本日は、ジョン・コードウェル博士、American Friends of Akita Prefectural University, Inc.の executive officer である Terry Wilson 氏にご臨席を賜り、American Friends of Akita Prefectural University, Inc.と秋田県立大学との覚書調印式が行われますことに感謝申し上げます。大変光栄なことだと感じています。

この覚書締結に至った背景ですが、ジョン・コードウェル博士の農業の発展、そこで暮らす農民が幸せであってほしいとの観点から、長年研究された成果に基づくものだと考えています。

現在日本の農業は、少子高齢化の波に飲み込まれ、大きな曲がり角に入っています。農業に携わる人の平均年齢は60歳代であり、後継者も少なくこの先の展望が開けない状態が続いています。この大きな問題を解決しようと秋田県立大学では、「秋田版スマート農業」に関する大きなプロジェクトを立ち上げています。そこでは、従来の農業生産技術に Society 5.0 社会に対応した新たな情報化技術や機器のロボット化などを取り入れて、生産性の向上、米に依存しない作物の体系化、新たなサプライチェーンの開拓、労働力の負担軽減等の技術開発を行い、現農業者の所得向上と、若者に魅力ある農業の姿を見せることにより、新規就農者を増やすことを狙っています。

しかし、これらは農業技術の開発であり、現就農者から見ると開発された技術は必要ではあるものの、押しつけになりかねなく、受け身的な存在です。コードウェル博士の基本的な立場は、農業者の視点に立ち、農業者自らが自発的に課題を発見し、解決していく姿が基本であるということだと思います。本学の佐藤了名誉教授との強いつながりもこの研究スタンスから生まれたものだと思います。お二人を中心にさらに周りに大勢の研究者が存在し、大きな力となって研究が続けられてきたものと考えます。

さて、American Friends of Akita Prefectural University, Inc.と秋田県立大学との覚書調印によって、「ジョン・コードウェル レガシープロジェクト」が立ち上がり、American Friends of Akita Prefectural University, Inc.から秋田県立大学に資金が提供されます。私たちにとっては、大変嬉しく光栄に感じています。資金の使い道については、ジョン・コードウェル レガシープロジェクト運営委員会が協議して計画、実行していく予定になっています。これらの資金を有効に活用して、秋田における農業、さらには日本のそして世界の農業に繋がる成果を出していければと願っています。

世界的に見れば、人口爆発が起きています。そして地球温暖化により気候変動が起こり、自然災害が多発してきています。食糧問題はとても重要な課題です。地域の農業活性化から世界における農業政策まで幅広く視野に入れて、秋田県立大学ではコードウェル博士のご指導の下研究を続けていく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

ここにお集まりの皆様方のますますのご発展を祈念し私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

以上